

## 【解 答】

### 3. 重複嚢胞

解説：

今回の検査で、腹部単純CT検査により、胃穹窿部から胃体部背側の腹腔内に69×42mm大の分葉状の境界明瞭な腫瘤性病変を認め、腫瘤内の一部に石灰化を認めている。さらに病変と胃穹窿部との境界は不明瞭である。また、主膵管との連続性は認められない。腹部MRI検査ではT1強調像で軽度高信号、T2強調像で高信号を認めていた。これらの画像所見から、嚢胞性病変と考えられる。超音波内視鏡画像も嚢胞性病変を示唆するもので

あった。本症例は画像上主膵管との連続性や胃穹窿部との連続性ははっきりせず、造影効果にも乏しく、胃GISTやIPMNは否定的であり、消化管重複嚢胞が考えられる。本症例は、その後の検査により微小な交通孔を介して胸腔内へ進展した重複嚢胞性病変であることが判明し、他院で手術を行い、最終的に気管支原性嚢胞と診断された。

本論文内容に関連する著者の利益相反

：二神生爾（アステラス製薬株式会社、武田薬品工業株式会社）

出題：二神 生爾（日本医科大学武蔵小杉病院  
消化器内科）

山脇 博士（  
）